

山下公園海底清掃大作戦

海をつくる会 会長 伊東徹雄

はじめに

『海をつくる会』は <身近な海を大切にしたい>という 初代会長の 願いから 発足され 昭和56(1981)年 第一回 山下公園海底清掃を 主催し 一般参加者を募集 陸上清掃班、海面清掃班、海底清掃班の3班 形式をとり 以後毎年 継続活動を行なってきました。

活動は 6月より 実行委員会を設立し 参加者への募集、協賛金の 依頼活動を開始し 約 4ヵ月後の10月を 海底清掃当日に設定しております

一般参加者への募集は 報道関係、新聞、雑誌、地方紙等に 募集掲載をお願いし 10月当日には 本部、船舶(監視艇)参加者を 含む 約300名~400名の体勢で 進行されます。

この活動を通し 次なるステップを考え 現在では 金沢八景先 野島公園内前浜で 定点生物観測を毎月行い 子供自然観察会や 他での清掃活動にも積極的に参加し 東京湾ハゼサミット 汽水域サミット等 参加をしております。

山下公園海底清掃を行なう “山下公園”は 横浜でも有数の観光地でありその観光地に訪れた方々が何気なく捨てていく “ゴミ” “空き缶”が 毎年 2tにも登ることから この活動は 継続しなければ成らない 活動なのです。

しかし 2tものゴミをいかに無くして行くか。これが細大の問題でありますが当日 収集されたゴミを観光客に見てもらえるよう ゴミの公開を致しますが他人事の如く過ぎ去る客を見ながら 我々の活動の意義を 再度自問し 翌年への意欲が湧いてくるものです。



海底清掃当日の体勢

スケジュール

8:30	受付開始
10:30	開会式
11:00	皆で泳ごうYOKOHAMA BAY
12:00	清掃開始
13:00	清掃終了
13:30	昼食
14:30	閉会式
16:00	解散

参加者

陸上清掃班	
海面清掃班	(スキンド이버)
海底清掃班	(スクーバダイバー)

海上監視体制

船舶監視船
ダイバー監視船
作業船



皆で泳ごうYOKOHAMA BAY

山下公園海底清掃大作戦

海をつくる会 会長 伊東徹雄

安全管理対策

ダイバー共通

健康チェック、ダイバースキルチェックシートにより開催当日の健康チェックを行ないます。

海面、海底清掃作業

清掃の為に 海へ入るとき（エントリー） 出るとき（エキジット）には 人数確認を行ないます。

手段は プラスティックプレートを エントリー時に渡し エキジット時に回収をし 人数確認を行い 又 団体登録者の場合には団体責任者の確認を頂き 個人参加者には 本部が定めたリーダーに採集確認をお願いいたしております。

ダイバー監視船

ダイバーが 海底清掃中に方向を見失い 沖に出てしまわないよう監視する船を配備し 監視船には ダイビングフルセット着用のダイバーを置き 監視船からの水中合図に対して 従わない場合にはダイバーが 潜水し 直接指示を致します。

船舶監視船

レジャーボートが行き交う横浜港。

そのレジャーボートが清掃作業区域に入らないよう注意を促す為の監視船を配備。

清掃中のダイバーを陸上から監視するため 約10m間隔で陸上監視員を配備し 約30m間隔で海面監視ダイバーを配備。

これらの安全対策が 山下公園海底清掃の要であり 20年もの継続で 一度も事故者を出さない理由なのです。

展示物

公園前海底生物を採取し 水槽展示を行い 横浜港での生物を知っていただく。

ROV(海底手動探索機)の導入で 海底の様子をモニターに映し 海底の様子を知っていただく。

ゴミによる生物への虐待を知っていただくため パネル展示を行なう。

回収したごみを一箇所に纏め ゴミを捨てないよう促す。



安全確認中

活動の成果

年度	参加者	ゴミ清掃量
1981年 第1回	200名	5.6t
1982年 第2回	250名	5.7t
1982年	150名	2t (さわやか運動参加)
1983年 第3回	150名	3.4t
1984年 第4回	150名	4.6t
1985年 第5回	100名	1.2t
1985年	50名	0.5t (横浜どんたく参加)
1986年 第6回	100名	1t
1987年 第7回	140名	2t
1988年 第8回	170名	3t
1989年 第9回	232名	5t
1990年 第10回	255名	2t
1991年 第11回	310名	3t
1992年 第12回	337名	2t
1993年 第13回	450名	2t
1994年 第14回	350名	2t
1995年 第15回	337名	3t
1996年 第16回	314名	2t
1997年 第17回	250名	1.5t
1998年 第18回	336名	0t (台風のため中止)
1999年 第19回	236名	2.5t
2000年 第20回	255名	1.5t
計	5,122名	55.5t

この活動を行なう事により 山下公園前の海は 白砂(地盤)が 現れ マコガレイ、クロソイ、アイナメ、オヤピッチャ、イシダイ、スズキ等が 生息し 過去には見られない 生物体系が 生息し始めている



集合写真

初回 5.6tもの清掃量が発生していましたが 現在では 平均で 2.5tとなっております これは 初回の過去 蓄積された投棄ゴミが 山積みになっており それを 我々が 取り除くことにより 現在の2.5tと言う 初回から見れば 半分のゴミ清掃量となっております しかし 毎年 2tものゴミが清掃されるのは 毎年 ゴミを投棄する観光客が 居るからであり これを無くすことは 不可能と感じておりますが この清掃を行なう事により 当日の観光客への啓蒙活動になり そのうち 1人でも ゴミの投棄問題に関心が生まれれば 幸いと感じております 又 各報道機関のご協力により この海底清掃が報道されることにより 広く 周知されれば ゴミの投棄は 減るものと信じ 活動を続けて行きます。

山下公園海底清掃大作戦

海をつくる会 会長 伊東徹雄

主生物一覧

コトヒキ ナベカ ニジギンボ ヨウジウオ
 メジナ サヨリ ウミタナゴ アミメハギ
 マハゼ クロダイ ススキ ボラ イソギンボ
 ニクハゼ アイナメ イガイ貝 ナベカ
 ワカメ ムラソイ アナアオサ イシガニ
 スジハゼ テッポウエビ オゴノリ アサリ
 マナマコ イトマキヒトデ メバル
 ユウレイボヤ ミズクラゲ イッカクモガニ
 チチュウカイミドリガニ アカオビシマハゼ
 イダテンギンボ ハタタテヌメリ

(1999年度 確認生物より)



海中に投棄された缶を住処にするギンボ

収拾したゴミ分析(海底)

(プラスチック・ビニール)		(金属)	
ビニールシートや袋の破片	126	廃棄物入りドラム缶(さびたもの)	11
袋:ゴミ袋	29	その他具体的に	0
荷づくり用ストラップバンド	8	(紙)	
プラボトル:ソフトドリンク	1	タバコのパッケージ	4
プラボトル:その他	2	その他具体的に	100
弁当・しょうゆ入れ他	6	(ガラス)	
使い捨てライター	17	破片	59
ひも・ロープ	2	(ゴム)	
釣り糸	1	タイヤ	2
文房具	2	コンドーム	2
魚網	2	その他具体的に	4
スポンジ	115	(布)	
その他具体的に	25	衣服類(シャツ・軍手・靴下など)	2
(発砲スチロール)		布片	1
破片	2	(複合素材その他)	
食品トレイ	2	自転車・バイク	1
その他具体的に	3	船	2
(金属)		その他具体的に	668
金属片	127		
針金	6		
乾電池・ボタン電池	2		

回収したゴミ分析（陸上）

（プラスチック・ビニール）		（紙）	
破片	1351	紙片	37
タバコのフィルター	55	タバコのパッケージ	3
ビニールシート	8	飲料用紙パック	5
ビニールシートや袋の破片	27	紙袋	1
袋：食品用・包装用	4	紙コップ	3
袋：ゴミ袋	15	新聞・雑誌	7
袋：スーパー・コンビニの袋	105	紙皿	9
袋：お菓子の袋	38	その他具体的に	124
袋：その他の袋	27	（ガラス・陶器）	
カキ養殖用パイプ	2	破片	8
荷づくり用ストラップバンド	18	びん：食品用	5
プラボトル：水・牛乳類	1	びん：その他のびん	26
プラボトル：食品用（マヨネーズ）	5	タイル・れんが・ブロックなど	13
プラボトル：その他	7	蛍光灯	3
ストロー	3	その他具体的に	5
弁当・しょうゆ入れ他	6	（木）	
使い捨てライター	6	加工された木片（自然のもの以外）	5
釣りのルアー・うきなど	5	材木	15
ひも・ロープ	1	ロブスター / かに捕りのわなかご	5
釣り糸	2	その他具体的に	3
かご・バスケット	4	（ゴム）	
スポンジ	21	破片	23
その他具体的に	3	ボール	3
（発砲スチロール）		その他具体的に	2
破片	5	（布）	
食品トレイ	7	衣服類（シャツ・軍手・靴下など）	2
ブイ	3	布片	4
その他具体的に	14	その他具体的に	9
（金属）		（複合素材その他）	
金属片	2	くつ・サンダル	3
缶：スプレー缶	37	船	2
缶：飲料缶	3	その他具体的に	2534
缶：その他の缶	16		
びんなどのふた	8		
釘・鉄板・鉄筋など	20		
プルタブ	25		
針金	10		
釣り道具	2		
廃棄物入りドラム缶（さびたもの）	1		
その他具体的に	212		



透明度？



回収したゴミの山

山下公園海底清掃大作戦

海をつくる会 会長 伊東徹雄

2000年活動報告

平成12(2000)年 活動報告

4月 1日	野島 定点 観測 / 定例会
5月 6日	野島 定点 観測 / 定例会
5月13日	泥抜き ダイブツアー
5月14日	総会
6月 4日	第1回 山下公園海底清掃実行委員会
6月03日より6月16日	環境保全局パネル展
6月10日	東京ベイクリーンアップ
6月10日	東京湾ハゼサミット
6月17日	野島 定点 観測 / 定例会
6月18日	野島オールクリーンアップ
6月24日	第2回 山下公園海底清掃実行委員会
7月 2日	田尻賞受賞式
7月15日	野島 定点 観測 / 定例会
7月29日	第3回 山下公園海底清掃実行委員会
8月19日	野島 定点 観測 / 定例会
8月20日	鶴見川いかだフェスティバル
8月21日	第4回 山下公園海底清掃実行委員会 (海上保安部)
8月26日	ジャスコ 海の観察教室
9月 2日	第5回 山下公園海底清掃実行委員会 (船舶会議)
9月16日	野島 定点 調査 / 定例会
9月23日	第6回 山下公園海底清掃実行委員会
10月 1日	第7回 山下公園海底清掃実行委員会
10月14日	第20回 山下公園海底清掃事前調査
10月15日	第20回 山下公園海底清掃 本番
10月21日	野島 定点 観測 / 定例会 / 金沢水の日準備
10月22日	金沢水の日
10月29日	SAVE2000 第一回シンポジウム
11月18日	野島 定点 観測 / 定例会
12月 9日	SAVE2000 第二回シンポジウム
12月09日 / 10日	忘年会
12月 9日	野島クリスマスキャンプ協賛
12月16日	野島 定点 観測 / 定例会
1月13日	SAVE2000 第三回シンポジウム
1月20日	野島 定点 観測 / 定例会
2月17日	野島 定点 観測 / 定例会
2月25日	水辺研究会 万国橋 ワカメ調査
3月 3日	横浜ボランティア協会『ボランティアに感謝し励ますつどい』
3月17日	野島 定点 観測 / 定例会
3月20日	水辺研究会 万国橋 ワカメ調査
4月21日	野島 定点 観測 / 定例会



自然観察会でのタッチプール



野島公園での地引網

海をつくる会 組織図

平成12（2000）年執行部

会長	伊東徹雄
副会長	鈴木太郎
事務局長	坂本昭夫
事務局補佐	辻 維周
経理	安田知生（広報兼務）
広報	工藤孝浩
保険	中村雅人（安全管理兼務）
安全管理	柳沼英春
会報	諏訪部英俊
会報	荒井雪江
野島定点	相原昌志
顧問	鈴木幹久

冊子 刊行

1995年10月刊行

『横浜・野島の海と生きものたち』

編者 海をつくる会

発行 八月書館

2000年3月刊行

『野島の海自然観察ガイドブック』

編者、発行：海をつくる会



野島公園海浜清掃



東京ベイクリーンアップ（お台場）